



教育実習について

本校では、以下の方針に基づき、教育実習を行っています。

大学の教育実習計画に基づき、教員をめざす学生に対し、体験的な教育実習を実施する。

その方針に基づき、下記の教育実習の受け入れをしています。

■ 事前実習

本実習に向けて5月下旬頃に実施される実習。授業や子どもとの関わりなどについて主に観察や講話から学ぶ。

■ 本実習

8月下旬から4週間にわたり実施される実習。将来、教師になったときに必要と考えられる基本的、一般的な事柄（子どもへの学習指導や生活指導、および学級・学校経営等）について観察や実践、講話から学ぶ。

■ インターンシップ

学校現場で教育活動や校務に関する支援を中長期的に経験することで、実践的な教員の資質を獲得する実習。

■ 幼稚園実習参観の受け入れ

附属幼稚園で実習を行っている学生を受け入れる実習。幼稚園と小学校の系統について考えたり、幼稚園と小学校の共通点や相違点について学んだりする。

■ 心理実習

心理学を専攻している学生と院生が行う実習。教師と児童の関わり及び学級集団の様子を観察したり、児童への支援の方法と多職種連携の実際を学んだりする。

今回は、本実習（以下：教育実習）のことについてお伝えします。本校では、教育実習を受け入れるにあたり、年度当初より管理職、教育実習担当及び各学年が入念に準備を行っております。これは、教育実習が実習生だけでなく、教員や子ども達にも大きな効果があると考えているためです。

私はこんな気持ちで実習を終えると思っていなかった。毎日、苦しくて仕方がないと思っていた。教師になるとは言ったものの、自分には無理じゃないかと思ったり、子どもと関わることがしんどいと思ったりするのではないかと思っていた。しかし、実習を終えて「教師って楽しい」「子どもと関わるって楽しい」と思うことができた。子どもたちとの記憶を思い出すと、「この学年でよかったな」と心から思える。それが今とても幸せだ。すべての関わってくれた人に感謝の気持ちでいっぱいだ。

これは、実習生が実習最終日に書いた実習記録（実習生が1日を終えて感じたことや考えたことを記入し、指導教員に提出するもの）です。この実習生は、教育実習が始まる前から教師になりたいと思っていました。しかし、自分が教師に向いているか悩んでいました。教育実習2日目には、子ども達とどのように関わってよいか分からず涙を流す場面もありました。しかし、この実習生は約4週間の教育実習を上記のように振り返っています。この実習生の変容には、教員や子ども達とのかかわりがあったことが推察されます。教員は、実習生が上記のように実習生にとって



価値のあるものになるよう教育実習に向けて準備をしたり、実習生への関わり方を考えたりしています。このような取組は、教員にとって非常に有意義な時間となります。普段、教員は目的をもって子ども達に関わっています。学年部では、学校経営方針や学年経営方針に基づき年度当初より何度も確認をしたり議論したりしているため、活動の目的について共

有することができます。しかし、活動の目的について共有ができていない教育実習生に分かるように伝えるには、もう一度自分達の考えを整理したり、どのように伝えるのかを考えたりする必要があります。その際、学年部で「この言い方で伝わるでしょうか?」「この活動の目的ってこういうことですよ?」などの議論が交わされます。この議論が教員にとって、非常に価値のあるものとなっています。教員自身の考えが整理されるためです。また、毎日放課後に実習生と教員の振り返りの時間を設けています。先程も述べた通り、教員は子ども達に目的を持って関わっています。ただし、1人ひとりの教員の経験や感覚に基づいて子ども達と関わる部分もあります。経験や感覚的に行っている支援について、実習生から質問がある場合があります。このような質問に対して自分の考えを整理しながら実習生に伝えることで、教員の子ども達への支援は感覚的（無自覚）なものから意識されたもの（自覚）に変化します。そうすることで、子ども達により目的を持って関わるができるようになります。教育実習は、実習生にとってはもちろん、我々教員にとっても大きな効果があるのです。

また、子ども達にも大きな効果があると感ずることがあります。「教育実習生の授業、どの学級も落ち着いて学習に取り組んでいるね。」この発言は、ある管理職の発言です。本校の管理職は、1日に数回校舎全体を見回り、各学年の様子を確認しています。先程の言葉は、今年度全校で取り組んでいる「生活アンケート」の項目にもある「どの先生の授業でも、やるべきことができている。」ができつつある状態ではないかと考えています。子ども達の毎月の振り返りの中でも、「教育実習生の先生の授業のとき、しっかりとやるべきことができた。新しい先生になってもこれまでのことができているから、私はできていると思います。」と実習生の授業を1つのフィルターとして自分達の成長を感じている姿がありました。また、右の写真は、教育実習最終日の様子です。お世話になった教育実習生へのお別れ会を企画し、実施した後の場面です。子ども達の中には、実習生との別れを惜しみ涙する子が多くいます。涙を流す教育実習生もいます。11月の学校懇談会后、ある保護者の方が次のような振り返りを書かれていました。



実習期間中、子どもとの会話の中で、実習生の話題がよくあがります。頂いたお手紙は毎年自慢して見せてくれます。温かいお言葉をいただき、子どもの宝物になっています。それだけ子ども達にとって特別な存在であり、素敵な時間であると感ずています。

小学生期に、出会いに喜び、別れを惜しんだ経験は、子ども達の心の中にあり続け、子ども達の心をより豊かにしてくれるのではないかと考えます。

このように、本校の教育実習は、実習生はもちろん、子ども達や教員にとって有意義なものになっております。そこには、保護者の方のご協力があります。右の写真は、ある日の放課後、教員と実習生が打ち合わせを行っている写真です。実は、この日は、本年度より実施されている夏休み明けの12時下校時の放課後の様子です。昨年度までは、限られた時間の中で、実習の流れの確認や授業の打ち合わせ、学年経営についての話をしなければなりませんでしたが、今年度は、子ども達が早く下校したため、教育実習生とこれまで以上に入念に打ち合わせや話し合いができました。そのため、例年以上に教育実習生が学年経営方針を意識した指導や、授業についてより深く考えたりすることができていたように感じました。



今後も、教員実習生に対して体験的な教育実習を実施するだけでなく、子ども達や教員も成長できる教育実習を実施してまいります。ぜひ、教育実習期間中には、子ども達が教育実習生とどのように過ごしているのかをお尋ねいただき、教育実習生と過ごす中で子ども達の成長を価値づけていただければ幸いです。引き続き、ご協力よろしくお願ひいたします。

<1月の行事予定>

日	曜	1月の行事予定	2月の主な行事予定
1	水		4日(火) クラブ活動⑩
2	木		5日(水) 卒業お祝い講演会(6年)
3	金		8日(土) 研究公開Ⅱ
4	土		10日(月) 代休日
5	日		11日(火) 建国記念の日
6	月		14日(金) 参観日
7	火		17日(月) 音楽発表会(児童)
8	水		学校評議員会③
9	木	12:00下校 5,6年休業日	19日(水) 音楽発表会(保護者)
10	金	12:00下校 5,6年休業日	24日(月) 振替休日
11	土		
12	日		
13	月	成人の日	
14	火	給食開始	
15	水		
16	木		
17	金		
18	土		
19	日		
20	月	5,6年休業日	
21	火		
22	水	保護者アンケート配布 書初め児童鑑賞(1,2年) 書初め保護者鑑賞	
23	木	学校懇談会④ 書初め児童鑑賞(3,4年) 書初め保護者鑑賞	
24	金	書初め児童鑑賞(5,6年)	
25	土		
26	日		
27	月		
28	火	新1年生懇談会	
29	水		
30	木		
31	金		